

## 私の生活を支えるもの

福津市立福間中学校 3年 毛利 真琴

私の姉は面白い。「私の頭はファンタジー！」と言ってしまうほど夢の国が大好きで明るい姉は、勉強や運動は少し苦手だがディズニーに関する知識は豊富で、ディズニーの曲を得意のエレクトーンでたくさん演奏してくれる。こんな楽しい生活を送れるのは、私達が日本に生まれたからだと言ってくれた。

約十七年前、母は姉を出産する際、切迫早産で約百日間の入院をした。そして姉は出産予定日より四か月早く、六百グラムの超未熟児で生まれた。母の産後は良好だったが、出産までの入院費用は百万円位かかったそうだ。これには診察代や点滴や注射等の治療費、食事代も含まれるので決して高額とはいえない。

一方姉は、生まれてすぐにNICUに入り六か月間入院した。まだ目も見えない、自力で呼吸もできない、ミルクを飲むこともできない状態だったので、保育器の中で人工呼吸器を装置し、ミルクは胃に直接チューブで送られ、点滴で薬の投与を受けた。その間、輸血や目の手術も行った。姉は、酸素吸入をしながらの退院だったが、私が生まれる少し前にそれも無事に終了している。姉の入院時の医療費は合計数十万円だったが、その請求は病院ではなく市から送られてきたそうだ。

母の入院費用は自己負担が三割、姉の医療費も未熟児療育医療制度の対象となり自己負担の軽減があった。なぜ、母や姉の医療費を全額支払わずに済んだのか、調べてみると「社会保障」という言葉にたどり着いた。「社会保障」とは、年金、医療、介護、子育てなど、国民の生活を支えるためにつくられた制度である。そして税金の使い道として最も多い額を占めている。もしこの制度がなかったら、私の家族は高額な医療費により生活が困難になっていたに違いない。ひょっとしたら、その負担が原因となり、妹の私が生まれてくることがなかったかもしれないと思った。

現在、国民には所得税や法人税、消費税などの納税の義務が課されている。これまで一番身近な消費税でさえ、自分の小遣いが減らないようにと、食品は八%、それ以外は十%のようなことしか考えてこなかった。税金の使われ方なんて気にも留めなかった。しかし姉の出生時の話を聞く中で、税金のことを勉強してその使われ方を意識するようになった。社会保障、公共事業、防衛、教育など国民の安心安全と、未来への投資にも使われていることを知った。何より、私達家族がその恩恵をこんなに受けていることを初めて知った。

今姉は、毎日元気に自転車で通学し、高校生活をエンジョイしている。そしてディズニーへの家族旅行を楽しみにしている。この幸せな生活が多くの人の支えによってつくられたものだというのを忘れてはいけない。私も多くの人が幸せな生活を送れるように、たくさん勉強をして自立した社会人になって、心を込めて納税できる大人になりたい。